

# ワークショップ

## 「5年目の福島を考える～食と農の現場をつなぐ」

日時 2015年12月6日(日) 13:00～17:15

会場 北海道大学農学部 食資源研究棟 F318

主催 リスコミ職能教育プロジェクト(北大農)

協力 札幌消費者協会/北海道大学 CoSTEP/他



旧ポプラ並木



食資源研究棟



農学部正面



農学部のロゴ

【テーマ】福島から遠く離れたところに住んでいる私たちは、福島をめぐる問題を今後どのように考えていったらよいのか？皆で考え質問し、考えよう。

【回答者】小山 良太さん 福島大学経済経営学群 教授

【グループメンバーと役割】敬称略

組	話しあい後に Q1を決める人	話し合い後に Q2を決める人	カーボン紙に質 問を書き出す人	小山先生に質問 をする人	グループファシ リテーターGF
A	****	****	****	****	****
B	****	****	****	****	****
C	****	****	****	****	****
D	****	****	****	****	****
E	****	****	****	****	****

【実行委員会実行委員】 門平睦代 (委員長 帯広畜産大学)

小山里美 (札幌消費者協会)

丸子剛史 (北海道農政部食品政策課)

【オブザーバー】 早岡英介 (北海道大学 CoSTEP)

中村由美子 (千歳市農業委員)

【スタッフ】代表/司会 小林国之 (農学研究院 本プロジェクト代表)

サブファシリテーター 竹内琳加 (農学部4年生)

サブファシリテーター 原佳子 (札幌消費者協会)

フロア統括 堀浩子 (農学研究院 本プロジェクト所属)

サブファシリテーター 正木卓 (農学研究院 本プロジェクト所属)

進行役 吉田省子 (農学研究院 本プロジェクト所属)

五十音順/敬称略

## 1) プロジェクト事業の概要

本プロジェクトは、平成 26 年度から 5 か年計画で文部科学省の事業採択を受け実施するもので、リスクコミュニケーション能力を身につけた人材の育成を目指しています。そのために、学習と実践の両面から構成される適正な大学院教育カリキュラムを考察しています。また、実践の場を通じリスクの現場を知る一方、現場の人々への知識とリスクの知を啓くことを目指します。なお、プロジェクトでは様々なリスク問題を多角的に扱い、利害関係者（ステークホルダー）と一緒に共感を生むコミュニケーションの場を構築し、その定着を図ることを目指します。

## 2) 言葉の説明

リスクコミュニケーション：「本プロジェクトでの考え方」は、16 時半過ぎにお配りします。  
ポストイット PI：付箋紙。考えや意見などを 1 枚に 1 つ書き込みます。何枚でも使って下さい。

ラッシュンペンなどを使い、書き込んだ PI を模造紙や大判ポストイットに貼ります。

グループファシリテーター： グループで話し合いをするとき、円滑に進むことを助けます。

サブファシリテーター： 今回は、3 人で進行を補佐します。

## 3) シリーズ学習会振り返り (12:30~15:30)

【第 1 回】8 月 4 日(火) 「農地と農作物はどうなったか」

講師：信濃卓郎さん

- ・放射性物質の悲惨と効果が発生した時点での農地の状況
- ・茶樹の放射性セシウムの分布
- ・水田に流入する用水中の放射性セシウム
- ・対策技術（農作業時の被爆抑制、反転耕、樹皮はぎ取り…）
- ・カリウムの投入／全袋検査／除染廃棄物の保管問題
- ・未来のシナリオを札幌の人に考えてもらう

【第 2 回】9 月 4 日(金) 「海はどうなったか」

講師：川井浩史さん

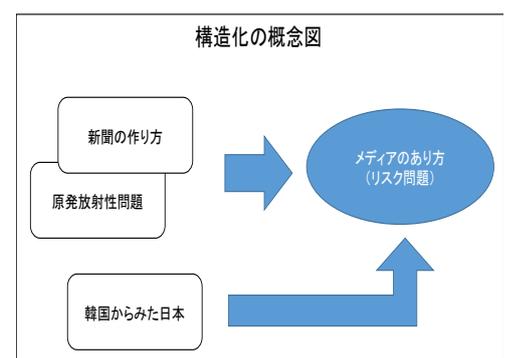
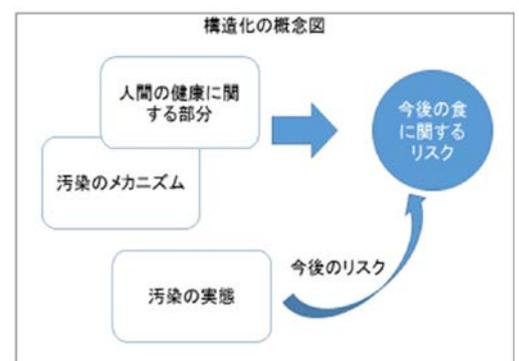
- ・測定による海域や海藻類を中心とした放射能影響について
- ・汚染された海域で生活する生き物は、影響出ないのか？
- ・セシウム等は降下物が表面に付着するのか、根からの吸収？
- ・データと自分たちの生活とのギャップ
- ・汚染水が流出している問題
- ・今後どのようなリスク（人と関わる部分で）があるのか？

【第 3 回】10 月 26 日(月)「メディアは私たちにどう伝えたか」

講師①久田徳二さん②申夏林さん③コメンテータ李炳昨さん

- ・北海道新聞の切抜きやインターネット動画で報道を復習
- ・輸入食品規制・禁止は韓国だけではないが、日本は WTO に韓国を提訴した。
- ・韓国での口蹄疫のリスク報道におけるメディア分析
- ・リスク報道では新聞の役割は大きい
- ・韓国マスコミは初期から放射能のリスクを重点において報道
- ・メディアと消費者の間にリスクコミュニケーションの専門家が必要だ。

未来のシナリオ 投票	
1) リスクがあることを前提で移行抑制対策を中止して営農を続ける(基準値超えが発覚した場合は、それぞれについて対応。現在のようなモニタリング体制はとらない)	5
2) 新たに予算(東電、国、県?)を確保し現状の体制を継続する。	6
3) リスクがある地域は農業活動を制限し、試験栽培を継続してリスクがなくなるまで待つ(放射性セシウムの減衰を待つ)	12
4) カリ供給が可能な地域資源の活用(ワラの還元など)を組み合わせた移行抑制対策を推進する(コストはかかる)	6



＝ 12月6日のプログラム ＝

1. 開会—15分

13:00～13:04 (5分) 開会+小山先生の紹介 (小林)

13:05～13:14 (10分) 手順説明と振り返り (吉田)

2. グループ語り合い (1) —45分～もやもや感 (GF)

13:15～13:34 (20分) 自己紹介とワークシート1ページ目の述べ合い

13:35～13:44 (10分) 小山先生に何を聞こうか意見の出し合い

13:45～13:49 (5分) 1枚のPIに一個質問書き白模造紙に貼る。1枚以上。

13:50～13:59 (10分) 話し合っってグループの質問を決める。

Q1とQ2は、担当者が模造紙の所定の位置に移す。

GFが予備質問を選び、カーボンに書く人が模造紙に3つ書く。

3. 休憩—15分 14:00～14:14

5分でグループ質問2個計10個を確定させる(重複回避) 吉田+GF+Qする人

4. 小山先生に聞いてみよう—60分

14:15～15:14 司会 (小林)

Qは2つの質問を2分以内で行う 回答は10分以内で

5. グループ語り合い (2) —60分～情報提供やコミュニケーションどう考える? GF

15:15～15:34 (20分) 来年のクリスマス頃? ワークシートで語り合い

13:35～15:39 (5分) 各自、PIに書き出して黄模造紙に貼り付ける

15:40～15:59 (20分) 11年後のクリスマス頃? ワークシートで語り合い

16:00～16:04 (5分) 各自、PIに書きだして黄模造紙に貼り付ける

16:05～16:14 (10分) A4の紙に大きな文字で、自分の「感想/気持ち/考え」を書いて (手短; 1分以内で読みきれる分量)、椅子席に移動

6. 椅子席に移動して互いの感想・気持ち・考えを聞きあおう—30分 司会は小林

16:15～16:37 (23分) 名乗って、各自30秒～1分以内で読み上げる

16:38～16:44 (7分) 椅子の上に紙を置いて、語り合い(2)のまとめを見に行ったり休憩したりする。この間に、回収しホワイトボードに貼り付けます。「リスクコミュニケーションについて」配布。

7. 椅子席に戻ってきて、小山先生からの応答を聞こう—15分

16:45～16:54 (10分) 小山先生からの長いコメント

16:55～16:59 (5分) プロジェクト代表の小林より総括

8. 閉会宣言とお願い

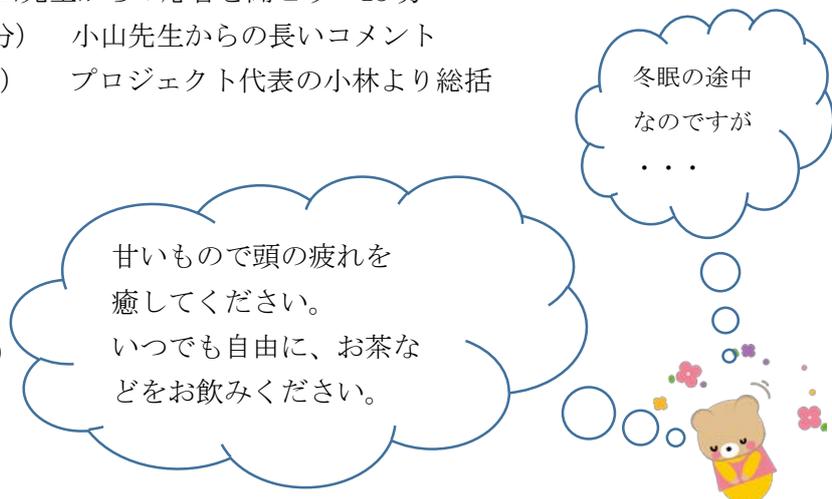
17:00

9. アンケートへのご記入

(最初のテーブル席に移動)

17:00～17:15

10. 17:15 解散



～メモ～